FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌

Vol.05

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

時代を繋いで

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長　坂野　浩一

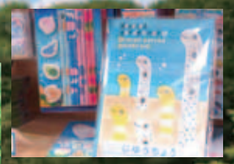
2018年度は、当館の指定管理者として、㈱江ノ島マリンコーポレーションが、2014年1月より管理運営を始め、最終年度にあたりました。
５年間の活動をふりかえると、2014年3月のリニューアル・オープンに向けて様々な準備を行い、“お客様の笑顔の溢れる水族館”を目指す施策として、“参加型体験”イベントとして、①「餌付け体験」では２種類の餌付け開発を行い、②「ものづくりワークショップ」では席数増加や企画充実などで参加率の向上に取り組みました。
二つ目には、“何度でも来たくなる水族館”でありたいと考え、①年に４度の「特別企画展」は様々なテーマで生き物たちをご紹介し、②相模川の生き物たちを中心とした「展示水槽」も生き物更新や展示更新をして、ご来館の度に新たな発見や感動をして頂けるように努めてきました。
三つ目には、地域の皆様や団体等との取り組みを拡大することができました。
この５年間は、市内団体の方々や地域の皆様に応援いただきましたことが嬉しく、感謝を申し上げます。皆様のおかげをもちまして、2018年12月には、2024年3月迄の指定管理者のご承認をいただくことが出来ました。
2019年5月より新元号となりますが、相模川ふれあい科学館は、昭和・平成に繋がる３つの時代に市民の皆様に親しまれる施設として在り続けたいと思います。ご来館されたお客様が“笑顔”になれることを、スタッフ一同の目標として、これからも新たな挑戦を続けていきます。

Contents

開館30周年をむかえて　3
施設運営　4
いつ来ても楽しい施設　5
地域連携　8
特別企画展
　◇鯉の知らない世界　10
　◇ふれあい夏まつり　12
　◇もぐる！　14
　◇釣りはじめ　16
ふれあいトピックス　18
ものづくりワークショップ　22
イベント　23
指定管理者紹介ページ　23

いつ来ても楽しい施設

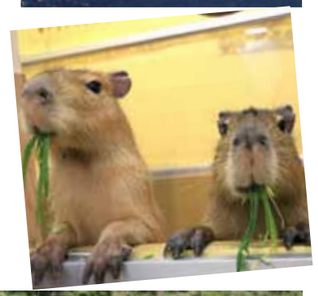
当館は建物面積が1,711㎡と小規模な施設ですが、いつ来ても楽しんで頂けるよう色々と工夫をしながら運営しています。
月毎にテーマを変えて更新する「マンスリー水槽」や、実験を通して生き物の特徴を知ってもらう「ミニトーク水槽」、他の機関と連携して当館だけでは伝えきれない相模川周辺の自然環境を紹介するミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」、そして年４回様々なテーマで実施する「特別企画展」などは定期的に展示更新をしています。
また、イベントも様々で、相模川の自然や生き物の観察会、釣り体験、近隣の割烹旅館と連携して実施するアユの串打ち・食体験、敷地内の田んぼで「田植え」～「稲刈り」～「実食」までの体験など、年間を通じて色々なイベントを実施しています。
その他にも水辺の生き物をテーマに身近な材料で工作する「ものづくりワークショップ」やミュージアムショップなど「前に来た時とは何かが変わっている」と思って頂けるよう定期的にラインナップを変えています。
初めて来たお客様はもちろん、リピーターのお客様にも喜んで頂けるよう「いつ来ても楽しい施設」を目指し、試行錯誤しながらスタッフ一同取り組んでいきたいと思います。



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

施設運営

1987年11月に、市民が集い、学び、遊びを通して相模川とのふれあいを深めることを目的とした施設としてオープンしました。「母なる川」相模川に生息する生き物や環境について展示をし、子供から大人まで楽しく、わかりやすく相模川の自然環境について普及啓発しています。
2012年度から2013年度にかけて老朽化や展示の旧態化等に伴い再整備工事を実施し、2014年3月のリニューアルオープンと同時に当社（株式会社江ノ島マリンコーポレーション）が指定管理者として施設運営をスタートさせました。
指定管理者として運営して来たこの5年間では、2017年11月に開館30周年、2018年3月に来館者300万人、2019年3月には施設運営開始5年での来館者100万人を達成し、多くの節目を迎えることが出来ました。
そして2014年3月からの5年間の指定管理に引き続き、2018年12月21日付で相模原市より相模原市立「相模川ふれあい科学館」指定管理者の指定を受けました。2024年3月31日までの5年間となります。
新たな5年に向けて、「相模川ふれあい科学館　アクアリウムさがみはら」の価値を最大限に伝えると共に、お客様に笑顔と感動をあたえられる質の高いサービスを提供してまいります。



イルミネーション点灯式

一般社団法人 相模原市観光協会　代表理事　加藤　明

相模原市観光協会と相模川ふれあい科学館とのコラボレーションで行っている「アクアリウムさがみはらイルミネーション」。リニューアルオープン後の平成26年から始まったこの事業は、平成30年で早くも５回目を迎え、すっかり水郷田名を彩る冬の風物詩として定着しました。
今年は装いも新たに科学館正面を際立たせたデザインに一新！建物の上部や橋の欄干にイルミネーションを設置、またモミの木の装飾もパワーアップ致しました！
点灯式では、今年は２箇所から花火の打ち上げがなされ、冬の夜空に打ち上げられる花火の美しさに来場者の興奮も最高潮。花火を合図に広場は約２万球のイルミネーションで飾られ、幻想的な世界を創り出しました。地元相模原で活躍中のGATOS（ガトス）によるミニコンサートや施設への無料入館も実施され来館者を喜ばせました。
水面に映える“逆さイルミ”は必見。１月中旬までイルミネーションは点灯、水郷田名の冬の夜を美しく灯し続けました。

科学館まつり

水郷田名観光協会

当館の屋外広場では年間を通じてお子様が楽しめる「科学館まつり」を実施しています。水郷田名観光協会様にもご協力頂き模擬店も出店しました。

他団体・他機関との連携

ミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」

波多野　順

昨年から始まりましたミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」では、知っているようで知らない・知られていない生き物たち（淡水エビ、水生昆虫、カワラノギク、ムササビ）をご紹介してきましたが、まだまだ伝えたい、知って頂きたい生き物たちが沢山います。そこで本年度も引き続き、相模川周辺で見られる生き物たちをご紹介しました。

この企画展示の特徴は、当館だけでなく、研究所や高校、博物館など他機関と連携をして、その道の専門家にご協力頂いている点です。他機関と連携することで、より充実した内容の濃い展示を実施することができ、幅の広い企画になっていると感じています。
また、分かり易くお伝えすることに苦心していますが、専門的な内容や最新の知見も含まれており、生き物の生態や現状など貴重な情報をご覧頂けるよう努めました。ご協力頂いている皆さまには、この場をお借りして御礼申し上げます。

第5回企画　消えた相模川の生き物 ～メダカはどこへ～

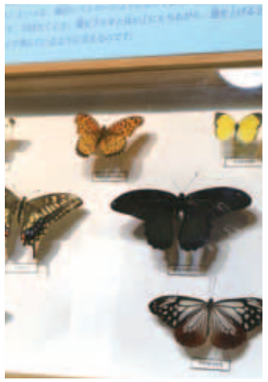
共同機関：神奈川県水産技術センター内水面試験場
展示期間：2018.4/17～7/16
展示生物：ミナミメダカ

概要　神奈川県では絶滅危惧種とされているメダカですが、相模川では、1990年代の調査でその生息が確認出来ておらず、絶滅が示唆されています。現在、内水面試験場などでは、神奈川県在来のメダカの保存が行われており、今回は、厚木市の小学校で飼育されて残っていた相模川水系のミナミメダカを展示し、その現状についてもご紹介しました。

第6回企画　相模原で昆虫採集

共同機関：光明学園相模原高等学校　理科学研究部
展示期間：2018.7/20～9/30
展示生物：カブトムシ、ノコギリクワガタ、オニヤンマなどの標本

概要　光明学園相模原高等学校の理科学研究部では、当麻山無量光寺周辺の昆虫について調べています。科学館からもほど近い無量光寺周辺には、ケヤキやクス、コナラなどの木々が茂り、湧き水が流れているなど自然豊かな場所が残されており、そこに棲む虫たちは、実に様々です。私たちの身近にも、多様な昆虫たちがいることをご紹介しました。



第7回企画　森と川をつなぐ鳥 ～オシドリ～

共同機関：相模原市立博物館
展示期間：2018.10/2～2019.1/14
展示生物：オシドリの標本

概要　オシドリは、川の上流部やその周辺の池や湖を主な生息地にし、また大きな木の樹洞を巣に利用をしています。そのため、川や池でも周囲に森があるような場所を好みます。また、秋には木の実（ドングリなど）を好んで食べる鳥でもあり、そのため森と川をつなぐ鳥とも呼ばれます。今回は、相模川でも見られるオシドリについてその姿や生態についてご紹介しました。

第8回企画　夜空を飛ぶコウモリたち

共同機関：津久井湖城山公園
展示期間：2019.1/17～4/7
展示生物：ユビナガコウモリ、キクガシラコウモリ、コテングコウモリの標本

概要　神奈川県では13種類のコウモリが確認されていますが、相模原市ではその内、9種類が確認されています。これは、相模原市がいかに自然豊かで多様な環境が残っているかを示しています。コウモリは、哺乳類の中で唯一自由に飛翔が出来たり、超音波を使ったり、また逆さまに止まったりと実にユニークな生態を持っています。今回の展示では、普段目にすることの少ないコウモリについてご紹介しました。

調査・研究

調査　相模川ふれあい科学館では、生き物の展示や飼育だけではなく、調査や研究などを通して、自然環境の把握や生態解明、飼育技術開発にも取り組んでいます。

ホトケドジョウ生息調査　2018.12/16
（生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会協力）
小田原メダカ生息調査　2019.1/28
（酒匂川水系のメダカと生息地を守る会協力）
東丹沢渓流魚調査　2019.2/8
（神奈川県水産技術センター内水面試験場協力）

研究発表

淡水貝類研究会　第24回研究集会（口頭発表）
2018.10/20
発表演題：「コイによる淡水産貝類の捕食サイズと捕食回避行動」
発 表 者：○波多野順、川瀬基弘、池谷幸樹

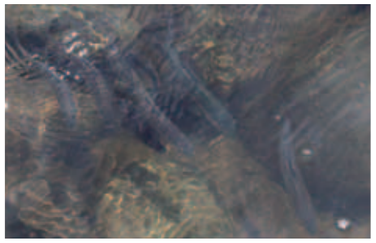
日本鯨類研究協議会　第2回水族館研究会（口頭発表）
2019.2/27・28
発表演題：「コイによる淡水産貝類の捕食能力と選択性」
発 表 者：○波多野順、川瀬基弘、池谷幸樹

地域　連携

近隣　幼稚園・保育園　・小学校との取り組み

稚鮎の放流

田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たちと相模川にて「稚鮎の放流」(5/21)を行いました。「いってらっしゃい！」と手を振りながら稚鮎を川に放流しました。



田名小学校

相模原市立田名小学校3学年の生徒たちと、1年を通じて相模川について学習を行いました。川では実際に水に入りながら生息する生き物を観察しました。当館では飼育スタッフの解説を聞きながら見学をしたり、1年を通じて調べた内容を各班でまとめ発表も行いました。

ふれあい田んぼ

田名幼稚園、友愛保育園の園児たちと屋外にあるふれあい田んぼにて「田植え」、「稲刈り・稲架がけ」を行いました。自分たちが食べているお米がどのように育てられているかを学びました。

大島小学校

相模原市立大島小学校の体育館にて5年生の生徒さんへ相模川の環境について講義を行いました。総合学習で相模川について学習しているので関心も高く、講義中も真剣に耳を傾けていました。

花苗の植え付け

友愛保育園の園児たちと当館の敷地内にある、さかなの形をした花壇に6月にはニチニチソウ、サルビア、11月にはパンジー、アリッサムを植えました。手で穴を掘りながら花の苗を大事に植えました。

近隣施設との取り組み

相模原市立麻溝公園ふれあい動物広場（公益財団法人ハーモニィセンター）

麻溝公園のふれあい動物広場にて実施された夏限定イベント「水中動物広場」に生き物の貸し出しをしました。

史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）

夏の期間中、史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）にご協力してスタンプラリーの会場としてスタンプ用紙、スタンプ台を設置しました。

春季特別企画展

鯉の知らない世界

～コイの魅力～

今、日本で見られる鯉は、日本の鯉ではない

鯉は、日本人にとって馴染み深い魚です。
皆さんも、川や池にいる鯉に餌をあげた経験があるのではないでしょうか。
この鯉の仲間は、淡水魚の中で最も種類が多く、ユーラシア大陸、
アフリカ大陸、北アメリカ大陸およびその周辺の島々にまで広く生息しています。
そして日本を含むアジアで特に繁栄した魚の一つでもあります。
日本人は古くから鯉を食用や娯楽、更には観賞用、芸術作品にまで広く活用をしてきました。
しかし、鯉には意外と知られていない事が沢山あります。
今回は、知っているようで知らない鯉について、楽しくご覧頂き、
鯉について新たな一面をご紹介しました。

展示飼育部
波多野　順

企画者コメント Comment

毎年5月に実施される「泳げ鯉のぼり相模川」で、千匹以上もの鯉のぼりが、相模川の風を受けて元気に泳ぐ、その壮観な風景に感動し、いつかは鯉の特別企画展を実施しようと決めていました。
鯉をはじめ、その仲間は世界に3000種類以上もおり、淡水魚で一番種類が多いグループになります。そしてその殆どがアジアを中心に栄えたため、日本を含むアジア圏では、古くから生活にも文化にも浸透してきた魚の一つでもあります。日本でも食用はもとより、錦鯉などの観賞用としても利用され、私たちの生活を支えてきた魚ではありますが、生活の変化などにより、近年はあまり人との接点も少なくなってきました。また今、川や池で見られる殆どの鯉が、ユーラシア大陸由来の外来種であり、現状を複雑にしています。しかし、日本人にとって鯉は、元気に泳ぎ、生命力のある姿に様々な願いを託してきた特別な魚でもあります。
今回の企画展では、「鯉の魅力」を知り、「色々な鯉」について学び、「本当の鯉」について考えて頂くことを目的としました。鯉は、人との結びつきが強い故に、その恩恵も影響も強くなると言えます。鯉を通して身近な環境に今一度、目を向けて頂けばと思います。

日本在来のコイを特別展示

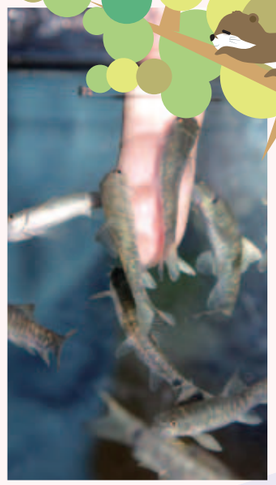
夏季特別企画展

ふれあい夏まつり

～さわって、感じて、知ってみよう！～

最近どんな生き物とふれあいましたか？

生き物を飼っている！あるいは、野外で自然観察をするのが大好き！
という方などをのぞいては、生き物とふれあう機会は
昔と比べて減っているのではないでしょうか。
身近な自然や水族館、動物園などで生き物を観察していても、
ただ見ているだけではなく、ふれてみて初めてわかることがたくさんあります。
この“ふれあい夏まつり”は、生き物のことを知り、生き物との正しいふれあい方を学び、
ふれあい体験を通じて新たな感動を発見していただきたいと考えて企画しました。



展示飼育部
竹本　淳史

企画者コメント Comment

また夏がやってくる。
昨年の夏に大変な思いをしたふれあい夏まつりからはや１年（詳細は情報誌vol.4を参照）。夏の企画展に向けた飼育員のミーティングでの会話。
上司「今年の夏は何する？」
皆「去年のふれあい夏まつりは大変だったなぁ（心の声）」
私「…カワウソが人気らしいですね」
上司「じゃあカワウソでふれあい夏まつりね！」
私「!?!?」
これはまた大変な夏になるとこの時皆が覚悟しました。
日本では100年ほど前に絶滅したといわれるカワウソですが、そのかわいらしさから水族館で人気者になったり、近年対馬でカワウソの映像が撮られたりとなにかと話題の生き物でした。
ですが、いざ飼育展示をしようとなるとこれまた課題が山積みでした。
手先が器用だから脱走しないように造りはしっかりしないと…

けっこうにおいも強いらしい…
屋内でしかも仮設で作る展示水槽ではたしてカワウソとふれあえるのか…
悪戦苦闘の結果、なんとかエサやりを通じてカワウソとふれあい体験が出来るようになって、たくさんのお客様の笑顔を見ることが出来ました。
振り返ってみれば、ダイオウグソクムシを展示したり、ミンククジラの頭部模型（実物大でヒゲ板は本物）にさわることが出来たりと、全体の内容も昨年よりパワーアップして、期間も長く開催しました。
かなり大変でしたけどね（笑）

ふれあった生き物たち

- コツメカワウソ
- アルダブラゾウガメ
- ケヅメリクガメ
- オオグソクムシ
- ガラ・ルファ
- ヘラクレスオオカブト
- ギラファノコギリクワガタ
- アカダイショウ
- ヒメハリテンレック
- クロミンククジラ（ヒゲ板標本）

秋季特別企画展

もぐる展

～モグラずにはいられない～

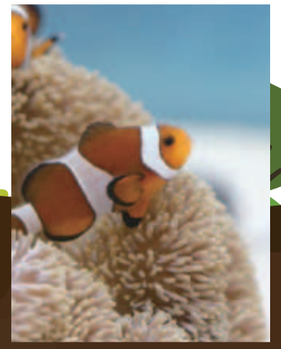
いろいろな場所に「もぐる」生き物たちの様子

私たちは、自分たちに見えていないところには、
“そこには何もいない”と無意識のうちに思いこんでしまうことがあります。
例えば、私たちの足元“土の中”。
陸上で暮らす生き物はたくさん名前を挙げることができても、
土の中にいる生き物はそうたくさん挙げられないのではないでしょうか。
ミミズやモグラに限らず、土の中には様々な生き物たちがいます。
“もぐる！展”では、普段あまり私たちが見ることのない、
色々なところに“もぐる”生き物たちに焦点を当て、
その見えない部分や生態などを紹介しました。

展示飼育部
亀ヶ谷千尋

企画者コメント Comment

いつかやりたいと思っていた企画展のテーマがありました。
それが“もぐる！”展です。
地球上にはいろんな生き物たちがいます。でも、全ての生き物が私たちの見えるところにいるわけではありません。
私たちの見えないところ‥土の中や石の中、さらには私たち生き物の中。色々なところに想像以上の生き物たちがもぐっています。
なぜ“もぐる”生き物をテーマにしたかったのか。
それは“見えない”からです。
見えないものが見えるって面白いですよね。
それに、“見えない”ところにいる生き物たちの中には“見える”ところにいる私たちの概念を超えた面白い生態の持ち主がたくさんいます。そのことを皆さんに伝えたかったのです。
でも１つ問題がありました。
それは、相手が“もぐる”生き物であることです。
もぐっていたら見えない。でも、もぐっているところを見ていただけかなければ意味がない‥。
そこで目指したのは、もぐっているけど見える展示です。
口で言うのは簡単ですが相手はもぐりのプロ、試行錯誤の日々となりました。
今まで担当した企画展の中で一番大変でしたが、あらためて生き物の面白さを実感したと同時に、来館された方々の楽しそうに生き物たちを観察する姿を見ることができ、苦労して良かったと思える企画展となりました。



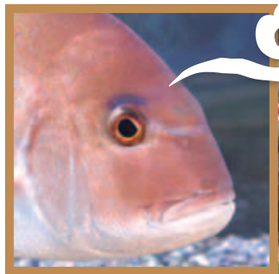
冬季特別企画展

釣りはじめ

～釣りの基本学ぼう～

釣りのいろは。

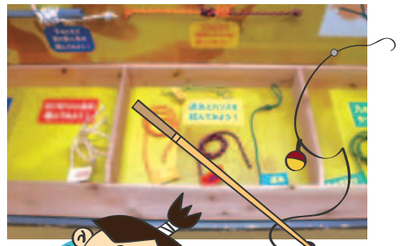
古くより人は、魚をとるために色々な工夫や努力をしてきました。
その一つが釣りです。魚を釣り上げるには、その習性を理解し、
行動を把握しなければなりません。釣りをすることは、魚を学ぶことでもあります。
釣りの基本は、竿から糸を垂らして、
餌を付けた針に魚が食いつくのを待つのが基本ですが、
魚種や地域、その時代により釣り方は様々に変化し、文化にもなっています。
今回の特別企画展では、釣りを通して、魚を学び、その面白さをご紹介しました。



展示飼育部
波多野　順

企画者コメント Comment

個人的に、釣りよりも、網で魚を捕まえることの方がすっかり多くなった今日この頃ですが、やはり、釣り針に魚が掛かった時の喜びは特別なものがあります。
最近では釣り人口も減っていると聞きますし、川を歩いていても、釣り糸を垂らす場所も限られてきたように実感することもあります。特に町の中で生活をしていると、釣りは遠い存在になってきているように感じます。一方で釣りは、道具をそろえて、基本を学べば、至ってシンプルに楽しめる遊びでもあるのです。
今回の企画展では、釣りのイロハとして、道具や結び方など基本を学べる展示や、釣りの疑似体験が出来るコーナーを充実させ、釣りについて関心を持ってもらえるよう工夫をしました。特に釣りの疑似体験コーナーでは、「川釣り」「海釣り」と２種類用意し、釣れる魚も、釣り上げた時の感覚を大切にして、魚自体が重くなっています。釣りごたえ満点です。何回も何回も挑戦する子供たちを見ていると、こちらも嬉しくなります。
この企画展を通して、釣りに興味を持ち、実際の川や海で釣りに挑戦して頂けるきっかけとなり、魚に興味を持って頂ければ成功かなと思っています。

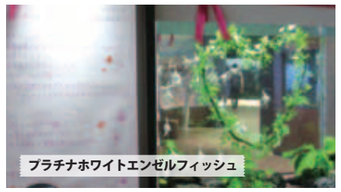


マンスリー水槽

戌年のさかな“チンアナゴ”

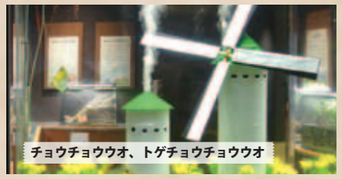
1月 平成30年の干支は“戌(いぬ)”でした。展示したチンアナゴの名前は、犬の狆(チン)という種類に顔が似ていることに由来しています。

恋を叶える？エンゼルフィッシュ



2月 バレンタインデーにちなみ、天使と名前につくエンゼルフィッシュと大きなハートを飾り立て、雰囲気を演出して展示しました。

ちょうちょ、ちょうちょ



3月 晴れた日の春、菜の花畑を蝶がひらひらと飛んでいる風景をイメージして、チョウチョウウオとトゲチョウチョウウオを展示しました。黄色と白色の体色が鮮やかで、2種を見る度になんだか明るい気持ちになりました。

海に舞う花びら

4月 私たちは色々なものから季節を感じます。その一つが“花”です。4月のマンスリーでは、まるで海を舞う花びらのようなハナダイの仲間、アカネハナゴイを紹介しました。

Happy Mother's Day

5月 母の日ということで、お腹からそのまま子供を産む、グッピーを展示しました。展示期間中、度々小さなグッピーを見かけることが多々あり、母親のような気持ちになりました。

Happy father's day

6月 父の日にちなみ、オスが口の中で卵を保護して育てる習性を持つシルバーアロワナを展示しました。

星のかがやき

7月 夏の夜空にかがやく天の川のように、地上の川にも星のようにかがやく魚たちがいます。7月のマンスリーでは、繊細な青いかがやきが美しいブルーテトラを展示しました。

お祭りの金魚

8月 金魚すくいのお祭りをテーマとして、大人な雰囲気のお祭りを目指しました。風車を飾ったり、ライトにこだわり、金魚の魅力を引き出せるよう頑張りました。

まんまるお月さま

9月 中秋の名月にちなみ、真ん丸な金魚「ピンポンパール」を展示し、水槽内でお月見を再現しました。

仮装するカニ!?モクズショイ

10月 お騒がせなニュースも聞かれるハロウィンでしたが、カニの仲間のモクズショイは水槽の中でカラフルに仮装して見る人を楽しませていました。

秋は夕暮れ

11月 秋の夕暮れのように美しい赤い体色をした、サンセットドワーフグラミーを展示しました。

水中のメリークリスマス

12月 クリスマスは街中が楽しげな雰囲気に包まれます。水槽の中でも、クモウツボがサンタクロースや家で待つ子供たちになりきってくれました。

ミニトーク水槽

的の中心を狙え！テッポウウオ！！ 01

生物種：テッポウウオ

期間：2017.12/26 ～ 2018.4/8

口から水鉄砲を撃つことが出来るテッポウウオ。ミニトークの時間には、的の中心に付けたエサを見事に撃ち落とす様子を観察しました。

海を泳ぐカニ 02

生物種：タイワンガザミ

期間：2018.4/24 ～ 7/16

別名「ワタリガニ」とも呼ばれるほど泳ぎが得意なカニです。オールのような形をしている足をパタパタ動かし、勢いよく泳ぐ姿を皆様にご覧いただきました。

ヒゲの役割はなんだろな？ 03

生物種：オジサン、ホウライヒメジ

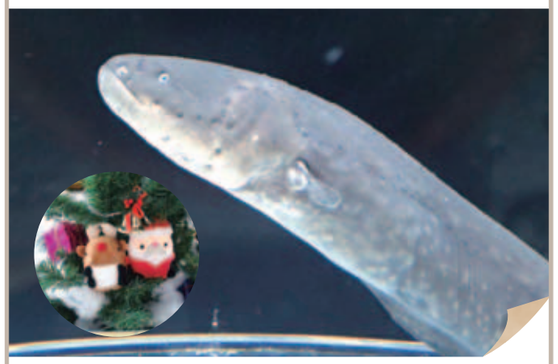
期間：2018.7/17 ～ 10/28

ヒメジ科の魚がもつヒゲの役割について、水槽内にエサが入った容器を入れて、ヒゲを使う様子をご覧いただきました。見た目が似ているオジサンとホウライヒメジの違いについても、パネルを通して解説しました。

発電する魚 デンキウナギ 04

生物種：デンキウナギ

期間：2018.10/30 ～ 12/25



実験を通してデンキウナギが発電する様子をご覧いただきました。12月にはクリスマスツリーを設置し、デンキウナギの発電に合わせてツリーを点灯してもらいました。

FUREAI ふれあいトピックス

海の生き物水槽

ここがすごい!! モンハナシャコ

生物種：モンハナシャコ
カラフルな姿のモンハナシャコは、強烈なパンチ力や紫外線や赤外線を見ることができる目をもつすごい生き物なのです！

期間：2018.4/10 ～ 6/30

ゆりかごは口の中!?

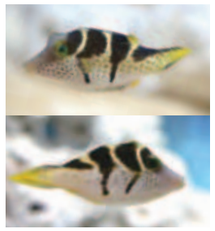
生物種：キンセンイシモチ
マンジュウイシモチ
イトヒキテンジクダイ
我が子を守りたい！そんな親の思いが“自分の口の中”で卵を守る魚、テンジクダイの仲間を生み出したのでしょうか？
期間：2018. 7 / 1 ～ 9 /30

光る貝!? ウコンハネガイ

生物種：ウコンハネガイ
光を反射させて光るウコンハネガイ。その閃光をはなつ姿から、イナズマガイやディスコガイとも呼ばれます。

期間：2018.10/2 ～ 12/9

どっちがほんもの？



生物種：シマキンチャクフグ
ノコギリハギ
海の中にはものまね名人がたくさんいます。それにしても本当にそっくり。本当に不思議。“擬態”をテーマに展示しました。
期間：2018.12/11 ～ 2019.3/31

小川の実験観察テーブル

赤いザリガニ！ 青いザリガニ？

生物種：アメリカザリガニ
赤い色の印象が強いアメリカザリガニですが、実は食べるものによって体の色が変わってしまいます。展示開始前からエサを調整して、青色のアメリカザリガニをご覧いただきました。
期間：2018.4/24 ～ 7/8

アマガエルは何色？

生物種：ニホンアマガエル
緑色のイメージのあるアマガエルですが、その体の色はまわりの環境に溶け込むため変化しています。水槽内の環境に合わせて緑色や茶色に体の色が変わる様子をご覧いただきました。
期間：2018.7/9 ～ 9/9

脱皮ってなあに？

生物種：モクズガニ
節足動物、爬虫類、両生類などは、成長する過程で脱皮を行います。今回は様々な生き物の脱皮殻と、モクズガニを展示し、脱皮の仕組みについて解説しました。

期間：2018.9/11 ～ 12/9

大人に変身する？ 両生類の成長のしかた

生物種：アカハライモリ
メキシコサラマンダー
幼生から成体になる途中、姿が大きく変わったり、呼吸の方法が変わったりする両生類の変態について、アカハライモリとメキシコサラマンダーを展示し、解説しました。
期間：2018.12/11 ～ 3/31

その他トピックス

「稚魚産まれました」

生物種：ミヤコタナゴ、
ホトケドジョウ、ミナミメダカ

神奈川県の絶滅危惧種である３種類の魚類の繁殖に成功し、その稚魚の展示を行いました。普段は目にすることの少ない、稚魚の様子をご覧頂きました。
期間：2018.7/1 ～ 7/16

「アルビノ個体のアマガエル」

生物種：ニホンアマガエル
アルビノ個体

環境に合わせて体色を変化させるアマガエルですが、稀に黒色素胞に含まれるメラニン色素を持たない個体（アルビノ個体）が現れることがあります。自然界ではなかなか見ることのできないアルビノ個体のアマガエルをご覧いただきました。
期間：2018.7/10 ～ 9/9

「青いアユ」

生物種：アユのコバルト個体

脳下垂体の変異により、体色が青くなる「コバルト」と呼ばれるアユを展示しました。この個体は、神奈川県水産技術センター内水面試験場より寄贈して頂きました。
期間：2018.10/26 ～

ふれあい田んぼ探検隊

展示飼育部　亀ヶ谷　千尋

私たちの食事に欠かせないお米。そのお米を作るには“川”の存在が欠かせません。相模川ふれあい科学館のある水郷田名地区も、相模川から引いた烏山用水の水によって稲作の盛んな地域でした。科学館の公園内にある“ふれあい田んぼ”では、今年も一般公募で集まった皆さんと一緒に、田植えから稲刈り、そして自分たちで作ったお米を頂く収穫祭まで体験しました。

田植え

5月26日（土）くもり

さあ、ふれあい田んぼ探検隊の活動のはじまりです。水を引いた田んぼに恐る恐る入る隊員たち。最初は、初めて踏む泥の感触におっかなびっくりでしたが、みんな丁寧に小さな苗を植えてくれました。

観察会

8月18日（土）　晴れ

田植えから84日。はじめは20cm程度だった苗も、夏のまぶしい日差しをうけてぐんぐん成長し、1mを超えるまでに成長しました。そして可愛らしい小さな花をつけた稲の周りには、サワガニやバッタなど色々な生き物たちを見ることができました。

収穫祭

11月3日（土）　晴れ

まちにまった収穫祭です。いよいよ実食！‥前にもう少しやることがあります。今では機械で行う籾摺りと精米を、すり鉢やボールを使って体験しました。そうしてがんばった後、炊きたての“ふれあい米”でおにぎりを作り、一年かけて育てたお米をおいしく頂きました。いつも当たり前に食べているお米には、こんなにたくさんの手間がかかっているんですね。

脱穀・風選

10月20日（土）　晴れ

お米は収穫してからもやることがあります。まずは、天日干しして乾燥させた稲から籾を取り、次に実のつまった籾とそうでない籾を風の力で選別します。みんなで力を合わせて、約10kgの籾を収穫することができました。

稲刈り・稲架がけ

10月6日（土）　晴れ

田植えから133日。いよいよ収穫の日です。台風の強い風にも負けることなく、りっぱに実った稲穂に、みんな笑顔になりました。稲を収穫したら、今度は束ねて稲架がけです。まるで職人のように次々にワラで稲を束ねる姿に、スタッフもびっくり。

ものづくりワークショップ

ワークショップを担当して4年目。いつも来てくださるお客様や、これから来られるお客様の顔を思い浮かべながら、毎回どんな内容にしようかな？と考えて作っています。作るのが苦手な人も、そうでない人も楽しんで参加していただけていれば、体験学習担当として何よりです。2018年も素敵な作品が沢山誕生していました。当館のワークショップは、小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけますので、是非多目的室2に遊びに来てくださいね！ご参加お待ちしております。

ものづくりワークショップ一覧（2018年1月～12月）

空を泳げ！いきもの凧づくり	冬休み～1/14（日）の土日	有料
おさかなポチぶくろ	1 / 9（火）～2/16（金）の平日	無料
水辺のリフレクター	1 /20(土)～3/11（日）の土日	有料
帰ってきた水辺のランプ	1 /27(土)～2/4（日）の土日	有料
とびだすカード	2/20（火）～3/23（金）の平日	無料
たまごでフィッシュ	春休み～4/22（日）土日祝日	有料
おさかなポンポン	4月の平日	無料
水辺のペーパーウェイト	4/29（土）～5/28（日）の土日祝日	有料
サンキャッチャー	5/8（火）～7/13（金）の平日	無料
ルアーキーホルダーリターンズ	6/2（土）～7/8（金）	有料
プチ・アクアリウム	夏休み～9/2（日）の土日	有料
カラクリおとと	9/4（金）～11/2（金）の平日	無料
ストーンアート	9/8（土）～10/8（月）の土日祝日	有料
おさかなコロコロ	10/13（土）～11/25（日）の土日祝日	有料
キラリ☆マグネット	11/6（火）～12/21（金）の平日	無料
スノードームすいぞくかん	12/1（土）～12/25（火）の土日、冬休み	有料

相模川のともだち

月に一度のレアイベント！？その月に飾っている写真の生き物を中心に、今まで紹介してきた生き物や各地で撮影した生き物について、伊藤さんが写真を見せながらお話をしてくれます。

相模川のともだち一覧（2018年1月～12月）

1月 ナベツル	7月 アオメアブ
2月 シジュウカラ	8月 サギとカワウ
3月 ダイサギ	9月 マユタテアカネ
4月 ホオジロとミノムシ	10月 オオタバコガ
5月 ウンモンヒロバカゲロウ	11月 トノサマバッタ
6月 ササグモ	12月 キジバト

イベント

当館ではシーズンを通じて様々なイベントや出張水槽を実施しております。

＜イベント＞

アユについて見て！食べて！学ぼう！

当館近くにある割烹旅館　旭屋にてアユの串打ち・焼き体験を実施し、参加者全員で食べました。

＜企業タイアップ＞

新聞記者になって『かながわ海新聞』をつくろう！

海と人との繋がりをテーマとした学習プログラム「海と日本プロジェクト」を神奈川新聞とテレビ神奈川と連携して実施しました。海と川の関係を学ぶ場として当館にてガイドや相模川で生き物観察会を行いました。

栄光サイエンスラボ　「相模川生き物ふれあいツアー」

科学実験専門教室の栄光サイエンスラボとタイアップし、生徒さんを対象に当館のガイドを実施しました。予定していた相模川での観察会は増水の影響で中止となりましたが、飼育スタッフの話を熱心に聴いていました。

＜出張水槽＞

相模原住宅公園（6/3）、新百合ヶ丘（6/10）、町田市民ホール（11/23）にて出張水槽を実施しました。施設や特別企画展などのPRを行いました。

新任スタッフのご紹介

展示飼育部
西田　征晃

水生生物だけでなく、鳥類（特にペンギンとセキレイ）も大好きです。今後は相模川で様々な鳥に出会ってみたいものです。

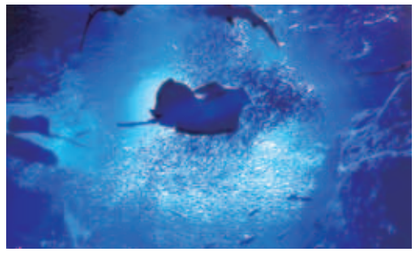
営業・管理部
高橋　晶子

物を作る事と動物が好きで、休日はガラスの作品を作ったり、馬に乗って癒されています。どうぞよろしくお願いします。

運営会社のご紹介

平成26年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。

新江ノ島水族館



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。

新江ノ島水族館
ENOSHIMA AQUARIUM
http://www.enosui.com/

世界淡水魚園水族館　アクア・トトぎふ

日本や世界の淡水域に生息する生物をご紹介している「世界淡水魚園水族館　アクア・トトぎふ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。

世界淡水魚園水族館
アクア・トトぎふ
http://aquatotto.com/

■アクセス　Access

電車バスご利用	JR横浜線　相模原駅南口より　神奈川中央交通バス 「水郷田名」行き　「ふれあい科学館前」下車　徒歩0分

車をご利用

国道16号線 → 相模原駅入口 → 上溝バイパス → 上溝 → 県道54号 → 相模川ふれあい科学館

圏央道 相模原愛川IC → 国道129号 → 上溝バイパス → 県道54号 → 相模川ふれあい科学館

■入館料金（税込）

区　　分	個　　人	パスポート	団体（20名以上）
大人（高校生以上）	390円	1,170円	310円
小人（小・中学生）	130円	390円	100円
65歳以上※	190円	570円	150円
幼児（小学校就学前） 障害者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料	無料	無料

※については、入館時に証明できる各種証明書のご提示が必要です。
　申請時に写真を撮影します。

お得なパスポート

パスポートは3回分の料金です。
ワークショップの割引もあります。

■開館時間　9：30～16：30
　　イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■休 館 日　月曜日（月曜日が祝日等の場合は開館）
　　ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション
【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市　事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館　事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1　動物取扱業の種別：展示　動物取扱業の登録番号：生衛　第204－00012号　登録年月日：平成26年3月10日　登録の有効期限の末日：平成36年3月9日　動物取扱責任者の氏名：竹本　淳史

相模川ふれあい科学館
アクアリウム さがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110　FAX.042-761-2665
https://sagamigawa-fureai.com/

相模川ふれあい科学館　検索